



# くらはし

舞鶴市立倉梯小学校  
学校だより 5月号  
令和7年4月30日

## 仲間との関わりの中で「知る・気付く」5月に！

五月晴れの気持ちのよい季節となりました。子どもたちの元気な声が、毎日新しい校舎に響いています。

先日、電車に乗る機会がありました。車内は多くの外国人観光客でいっぱいでした。しばらくすると一人の外国人の方がにこやかに立ち上がり、高齢者に席を譲られました。その様子を見て「おもいやり」の行動は、国境を越えて共通するものだと感じました。

その日のうちに、また電車で席を譲る光景を目にしました。二度同じような行動を目にしたわけですが、それぞれ私の受けた印象が全く違うことに気付きました。そして、恥ずかしい思いをもったのです。なぜなら「外国人観光客は、マナーが悪いものだ」という先入観があったことに気付いたからです。

マナーは、それぞれ人によって違うはずなのに、無意識のうちに外国人観光客はマナーが悪く、席を譲ることはない勝手に思い込んでいたわけです。全くの誤りです。その後、私も家族連れの外国人観光客の方に席をお譲りしたのですが、何とも言えない自責の感情は拭い去れませんでした。

ある日の登校班のことです。6年生の登校班長に「6年生は忙しいやろ。」と声をかけるとすぐ後ろにいた1年生が「校長先生、ぼくだって園の年長の時、忙しかったしな。」とすぐに言ってきました。おっしゃる通り、確かに6年生だけが忙しい訳ではありません。「高学年になるほど忙しいはず」という言葉の裏に1年生は時間がある、という意識があったのかもしれませんが。1年生だからといって、できない存在と考えてはいけません。常に自立と成長を促す中で、子ども達は大きな力を発揮します。「子どもはすごい力もつとる。なめたらあかん。」恩師の言葉が頭によぎります。

さて、このように、無意識のうちに「～にちがいない」や「～であるべきだ」という固定観念を持ってしまふことがあります。正しい知識を基に判断できるよう「知ること」と、心にアンテナを張り巡らせ、様々な人との関わりの中で「気付く」ことが、正しい認識をもつ上で大切です。

新しい学年がスタートして1か月経ちました。学校では、様々な個性を持つ仲間と出会い、いっしょに学びます。自分と他者が違うことは当たり前です。違いを否定するのではなく、お互いを認め合い尊重し合う中で、子ども達が大きな力を発揮できるよう充実の5月にしていきます。

困っている人がいれば声をかけ、手を差し伸べる。違う意見にも耳を傾ける。そんな小さな行動から、みんなが気持ちよく過ごせる学校になってほしいと考えています。

いよいよゴールデンウィークです。楽しい予定もあるかと思いますが、様々な祝日が続きます。それぞれの祝日に込められた理念を再確認し、改めて周りの方へ感謝するとともに、誰もが幸福に暮らせる共生社会の実現に向けて、前へ進んでいく機会になればと願います。

保護者の皆様、地域の皆様には、お休み中の子どもたちの生活が安心・安全なものになりますよう引き続きご協力をお願いします。

校 長 四 方 直 人